

奈良県版 架け橋期のカリキュラムモデル

令和8年3月
奈良県教育委員会事務局
義務教育課

はじめに

現在、国においては次期学習指導要領の改訂に向けた審議が進められており、その中で、幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎として重要であることや、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を一層推進していく必要性が示されています。

義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生にかけての時期は、学びや生活の基礎を形成する上で極めて重要な時期とされ、「架け橋期」として位置付けられています。この時期には、幼稚園、保育所、認定こども園等と小学校がそれぞれの役割を果たしつつ、子どもの健やかな育ちを支えていくことが求められています。

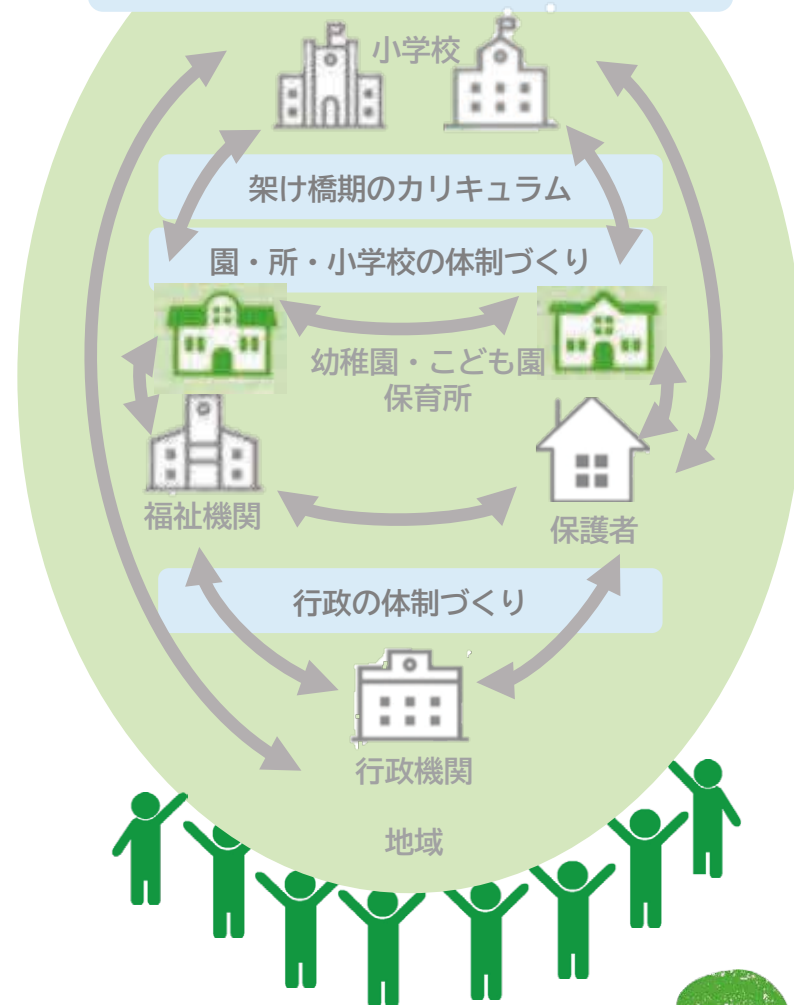
このため国は、架け橋期における教育の充実を図る取組を「架け橋プログラム」として推進しています。架け橋プログラムは、子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

奈良県では、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進するため、令和5年度に「幼保小接続ガイドライン」を策定しました。このガイドラインは、幼児期の教育から小学校教育へと子どもの育ちや学びを円滑につなぐとともに、園・所・学校間の連携をさらに充実、深化させることを目的としています。

本カリキュラムモデルは、奈良県における幼児教育と小学校教育の円滑な接続をより具体的に進めるための参考資料として作成したものです。園・所・学校間の連携が形式的な取組にとどまらず、体制づくりを含めて持続的に展開されることにより、幼児教育と小学校教育の質の向上が期待されます。単に「カリキュラムを作成すること」を目的とするのではなく、それぞれの立場で子どもの育ちをつなぎ、地域全体で学びを支える視点を重視してください。

本カリキュラムモデルを、各市町村、園・所・学校において積極的に活用いただき、幼児教育と小学校教育の一層の充実と接続が推進されることを期待しています。

架け橋プログラム



奈良県版
架け橋期のカリキュラムモデル



奈良県版 架け橋期のカリキュラムモデル

ガイド集

「架け橋期」ってなに？

どうして「幼小の接続」が必要なの？

「架け橋プログラム」の体制づくりが必要です

「架け橋期のカリキュラム」をいっしょに作成

「架け橋期のカリキュラム」作成のプロセス

「架け橋期のカリキュラム」をいっしょに作成しましょう！

「架け橋期のカリキュラム」作成のプロセス アクション例

その1～その5

… 1ページ

… 2ページ

… 3ページ

… 4ページ

… 5ページ

… 6ページ

… 7～9ページ



シート集

奈良県版「架け橋期のカリキュラム」 共有シート(案) 記入例

奈良県版「架け橋期のカリキュラム」 共有シート(案) 作成手順

奈良県版「架け橋期のカリキュラム」 共有シート(案)

奈良県版「架け橋期のカリキュラム」 実践記録例1(就学前)

奈良県版「架け橋期のカリキュラム」 実践記録例2(小学校)

実践記録(案) 就学前側の記録用シート

実践記録(案) 小学校側の記録用シート

参観(公開保育・公開授業)ワークシート

… 10ページ

… 11ページ

… 12ページ

… 13ページ

… 14ページ

… 15ページ

… 16ページ

… 17ページ

参 考

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)

「架け橋期のカリキュラム」づくりに期待できることって？

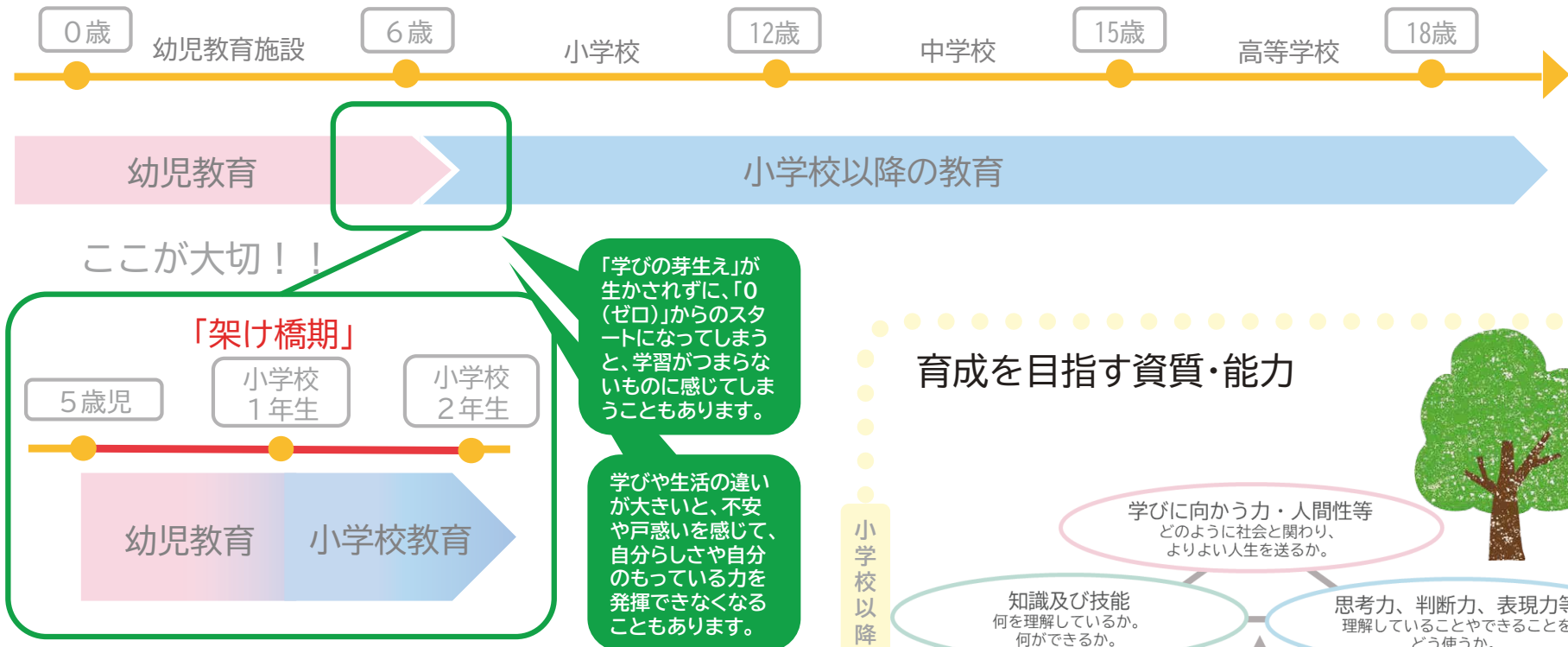
… 18～19ページ

… 20ページ

幼稚園・こども園・保育所・小学校の
「架け橋期」ってなに？

発達の段階に応じて学びの場は変わりますが、一人一人の成長や学びは連続しています。就学前の学びを、小学校以降の学びへと円滑につないでいくことが重要です。幼稚園（こども園・保育所等）の5歳児から小学校1年生の2年間を、「架け橋期」といいます。

幼児期に育まれた好奇心や探究心などが、学びの原動力に・・・

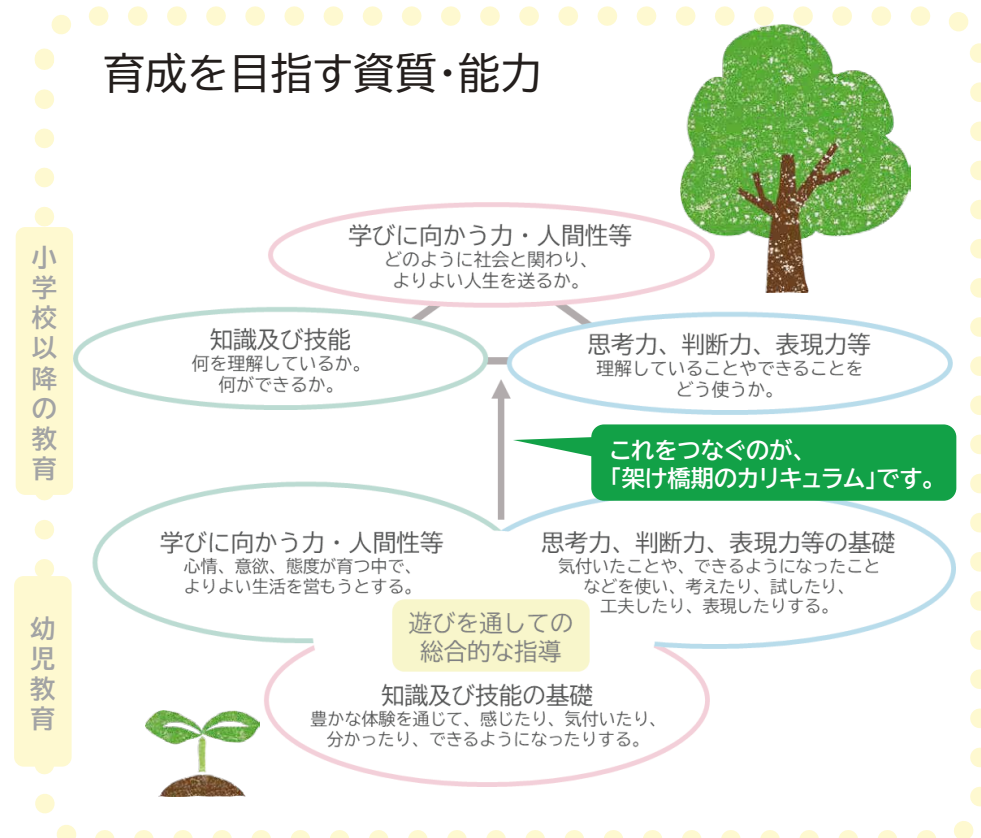


幼児期にふさわしい教育を通して育まれた心情、意欲、態度が、生涯にわたる学びや生活の基盤となっていきます。

好奇心や探究心、想像力、粘り強さややり抜く力、自尊感情などの社会情動的スキルを含む非認知能力は、生涯にわたる学びを支える重要な力であり、認知能力と相互に関わり合いながら育っていくと言われています。

こうした非認知能力は、特に幼児期に顕著な発達が見られ、学童期から思春期、青年期を経て育まれていきます。

育成を目指す資質・能力





幼稚園・こども園・保育所・小学校で

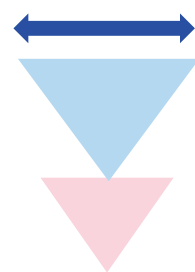
どうして「幼小※の接続」が必要なの？

※「幼小」は幼児期の教育と小学校の教育を指しています。

小学校に入学した児童は、幼稚園・認定こども園・保育所・家庭・地域などで、さまざまな体験を通して学んでいます。
小学校1年生を「0(ゼロ)」からのスタートではないと認識し、子どものもつ力を引き出す姿勢が大切です。

【20ページ】

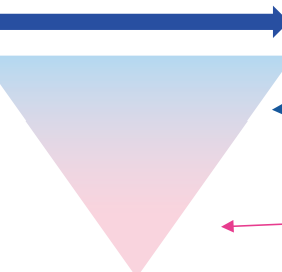
「架け橋期のカリキュラム」づくりに期待できることって？



児童期

幼児期

幼児期の学びが「0(ゼロ)」になるイメージ



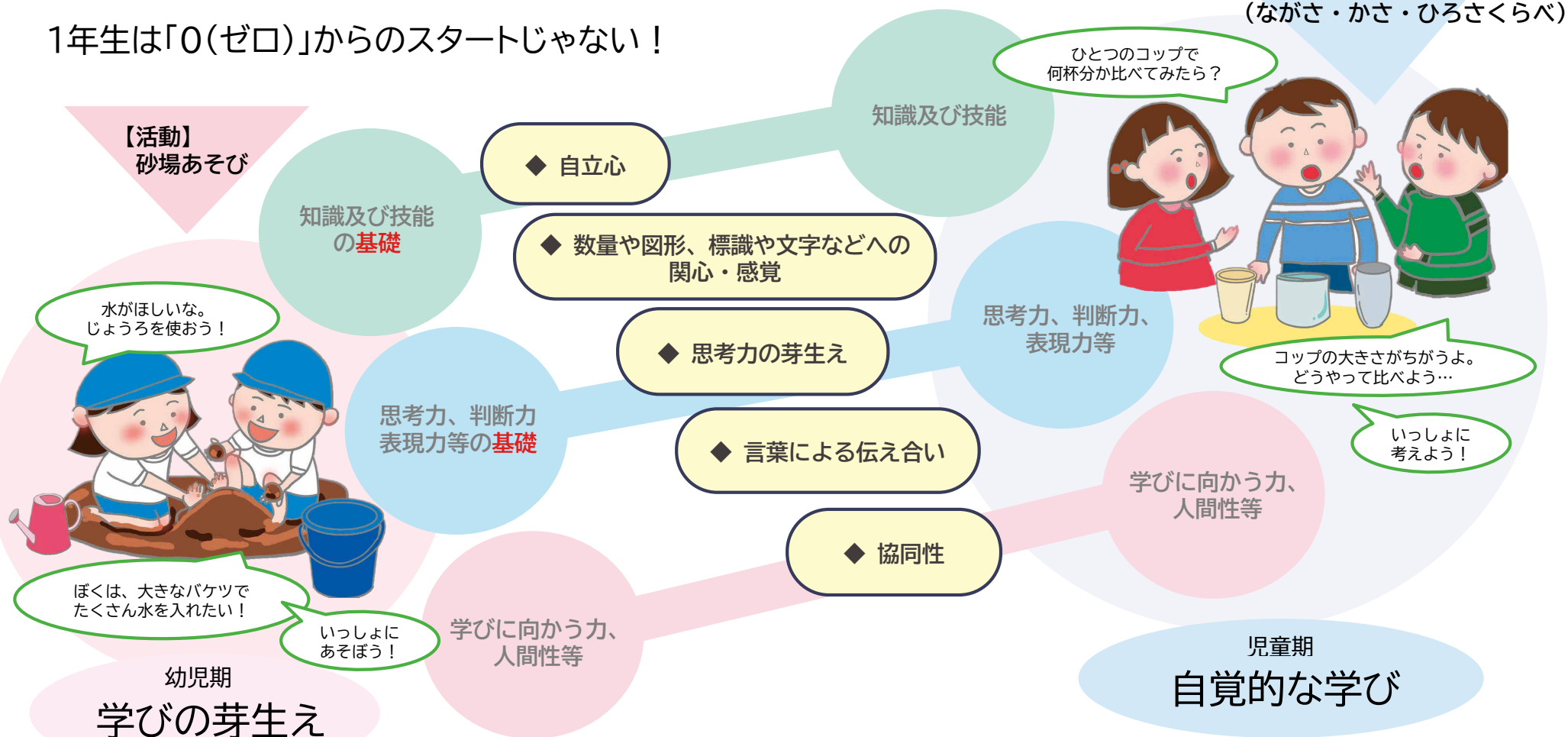
円滑な接続によって、その後の**資質・能力の伸びや広がり**に差が生まれます。

小学校教育

幼児教育

幼児期の学びを生かしてつなぐイメージ

1年生は「0(ゼロ)」からのスタートじゃない！





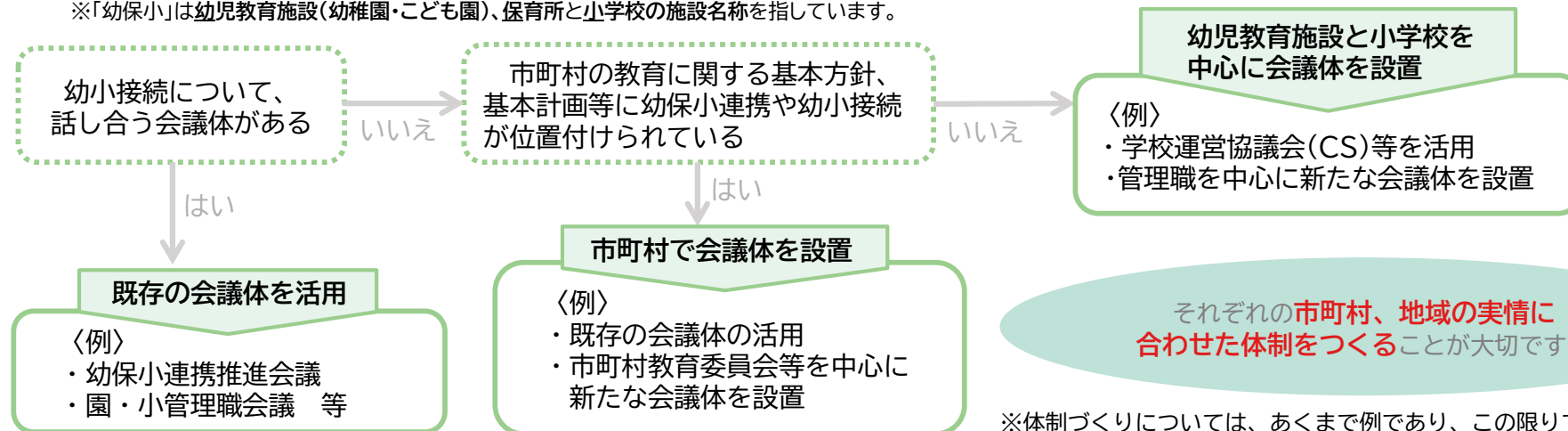
幼稚園・こども園・保育所・小学校で

「架け橋プログラム」の体制づくりが必要です

人と学びの「つながり」が、子どもの学びの質を高めます！

■ 幼保小※の架け橋プログラムの実施に必要な体制〈例〉

※「幼保小」は幼児教育施設(幼稚園・こども園)、保育所と小学校の施設名称を指しています。



※体制づくりについては、あくまで例であり、この限りではありません。

■ 幼保小の架け橋プログラムの実施に必要な園内・校内の基盤づくり



園長・校長の連携とリーダーシップ

- ・幼児教育施設、保育所と小学校が連携・協働するためには、園長、校長の連携とリーダーシップが重要です。
- ・幼児教育施設、保育所と小学校の教職員が顔を合わせる機会をつくるなど、気軽に話し合える雰囲気醸成していきます。



連携窓口の明確化

- ・園務、校務分掌に幼小接続担当の教職員を位置付けるなど、窓口の一元化を図ります。



自園・自校の教職員への理解促進と参画

- ・園内、校内研修において、全ての教職員で幼保小の架け橋プログラムに取り組む意義やねらいを共有します。
- ・保育参観や授業参観などへ行くことができる体制を整えます。



委員会等とワーキンググループの関係の明確化

- ・園内、校内にある様々な委員会と幼保小合同会議との関係を明確化し、全ての教職員で幼保小合同会議の役割や機能を共有します。

5歳児、小学校1年生の担任など、一部の教職員、一時期の取組にならない園内、校内全体での協働体制が大切です！

園内、校内全ての教職員で幼保小の架け橋期プログラムに取り組む意義やねらいを共有して体制を整えることが大切です！



幼稚園・こども園・保育所・小学校で

「架け橋期のカリキュラム」をいっしょに作成

「架け橋期のカリキュラム」は、複数の幼稚園、こども園、保育所、小学校の教職員が協働して作成するプロセスが何より大切です！

自園・自校の「カリキュラム」をチェックしてみましょう

□ 5歳児後半から1年生4～5月までのカリキュラムを作成している。

あるいは・・・

- ・ 5歳児のカリキュラムが、小学校の前倒しのような内容になっている。
- ・ 1年生のカリキュラムが、“小学校に慣れる”ためのカリキュラムになっている。

□ 園と小学校が協働で作成していない。

あるいは・・・

- ・ 園と小学校がそれぞれ個別に策定していて、互いのカリキュラムを知らない。
- ・ 書いていることが細かすぎる。用語が分からない。互いのカリキュラムを見るだけのものになっている。

□ 年度途中でカリキュラムを見直すことはない。

あるいは・・・

- ・ 担当者、学年の担任が変わると継続しない。
- ・ 年度の途中で見直すことはなく、一度策定したものを次年度も同内容で運用する。
- ・ 複数校園が集まる時間がとれない。

□ そもそも、どうやってカリキュラムを作成すればよいか分からない。



一つでも当てはまるものがあれば、見直しが必要です。

次ページに続くプロセスを参考にし、「架け橋期のカリキュラム」を作成しましょう。



「架け橋期のカリキュラム」は作成が目的、完成がゴールではありません!!

カリキュラムをデザインし、実践を記録・共有し、さらにデザインしていく。その往還のサイクルを大切にしましょう。

本手引きに示しているカリキュラム作りは、あくまでモデル（例）です。

それぞれの地域や学校区で保育や授業を参観したり、参観後に協議をする中で地域のねがいも合わせたりしながら、カリキュラムを作成してください。

作成を目的とするものではありません。作成のプロセスで互いの教育の理解を深めること、そして、その理解によって幼児教育と小学校教育、双方の質を高めることが大切です。



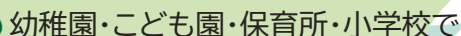
「架け橋期のカリキュラム」作成のプロセス

「架け橋期のカリキュラム」作成において大切なことは、保育者と小学校教員で子どもの姿を基に語り合える体制をつくり、保育・教育の充実に向けて実践・検証しながら、協議を通して改善していくことです。それぞれの保育・教育の違いを互いに尊重し理解し合いながら、共に育てていく子どもの姿を真ん中に、共通に大切にしたいことを語り合い、できるところから進めていきましょう。

今、自身の市町村（または近隣の幼児教育施設や保育所と小学校）が、どのフェーズにあるかを繰り返しチェックしながら、接続を推進しましょう。次のフェーズに取り組む際のヒントとして、取組例を参考にしてください。

	フェーズのイメージ	取組例	シート
フェーズ1 基盤づくり	- 子ども同士の交流 - 管理職や担任間の関係づくり - 園・校の生活の流れや活動の共有 - 教職員の交流や合同研修 相互参観	その1 幼児・児童の育ちや学びを理解しましょう 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を理解する - 互いの保育、教育について知る ※ 7ページへ その2 期待する子ども像をいっしょに設定しましょう - 地域、子どもたちの特性や強みから、期待する子ども像を明らかにする ※ 7ページへ その3 5歳児のカリキュラムと1年生のカリキュラムを互いに理解しましょう - 実施期間(5歳児から小学校1年生の2年間)を見通す - 学びの芽の種になるカリキュラム(保育)と、その芽を伸ばすカリキュラム(学習)を双方から検討する ※ 8ページへ その4 期待する子ども像の育成に向けて、大切にしたいことを共有しましょう <指導上の配慮事項> - 環境構成、単元構成の工夫 - 先生の関わり方について - 一人一人の幼児・児童に応じた支援 <子どもの交流> <教職員の交流> <家庭や地域との連携> 等 ※ 8ページへ その5 それぞれの実践の振り返りを踏まえて、いっしょにカリキュラムを見直し、次の期間の見通しをもちましょう - 園所と小学校が、共通の視点を互いに理解した上で、主な遊びや単元、予想される活動をデザインする ※ 9ページへ	■奈良県版 「架け橋期のカリキュラム」 共有シート →12ページ 記入例 10ページ 作成手順 11ページ ■参観ワークシート →17ページ ■奈良県版 「架け橋期のカリキュラム」 共有シート →12ページ ■参観ワークシート →17ページ ■奈良県版 「架け橋期のカリキュラム」 実践記録(案)シート →15、16ページ 記録例1(就学前) 13ページ 記録例2(小学校) 14ページ ■奈良県版 「架け橋期のカリキュラム」 共有シート →12ページ ■奈良県版 「架け橋期のカリキュラム」 記録シート →15、16ページ
フェーズ2 検討・開発	「共通の視点※」をもとに、各幼児教育施設と小学校(幼保こ小)間の意見交換 架け橋期のカリキュラムの検討 相互参観		
フェーズ3 実施・検証	各幼児教育施設と小学校間の実施・検証 - 教育課程や指導計画等の見直し - 互いの教育内容・方法の理解深化 実践と子どもの姿の共有 相互参観		
フェーズ4 改善・発展 サイクルの定着	持続的・発展的な架け橋のカリキュラムの開発 PDC Aサイクルの確立 子どもの実態に応じて、各幼児教育施設と小学校の創意工夫を生かした動的なカリキュラムに！		

※「共通の視点」とは、幼児教育施設と小学校の関係者が、子どもの育ちや学びを共通の観点から捉え、架け橋期のカリキュラムを検討するための視点のことを指します。例えば、架け橋期を通してどのような子どもを育てたいか(期待する子ども像)、子どもの遊びや学びのプロセス、環境の構成、教師の関わり等



取組例(その1～その5)と「架け橋期のカリキュラム」共有シートの関係



幼児・児童の育ちや学びを理解しましょう

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を理解する
- ・互いの保育、教育について知る

➡ 7ページへ



期待する子ども像をいっしょに設定しましょう

- ・地域、子どもたちの特性や強みから、期待する子ども像を明らかにする

👉 7ページへ



5歳児のカリキュラムと1年生のカリキュラムを互いに理解しましょう

- ・実施期間(5歳児から小学校1年生の2年間)を見通す
- ・学びの芽の種になるカリキュラム(保育)と、その芽を伸ばすカリキュラム(学習)を双方から検討する

➡ 8ページへ



期待する子ども像の育成に向けて、大切にしたいことを共有しましょう

- ＜指導上の配慮事項＞
- ・環境構成、単元構成の工夫
 - ・先生の関わり方について
 - ・一人一人の幼児・児童に応じた支援
- ＜子どもの交流＞
- ＜教職員の交流＞
- ＜家庭や地域との連携＞ 等

 [8ページへ](#)

まずは、互いに子どもの活動の様子を記録した写真などを手がかりに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」と「資質・能力」で見取ったり、語り合ったりしてみましょう！

(参考：18～19ページ「幼児期の終わりまでに育ってほしい（10の姿）」）

■奈良県版「架け橋期のカリキュラム」共有シート（案） 【 小学校区】校 園 名（ ）

共有シート（案）記入例		5 歳児	小学校 1 年生
期待する子ども像		自ら学び（遊び）、互いを尊重しながら地域とともに成長し、心豊かに未来を切り拓く子ども	
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。	
	思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考えをおしりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしていく。	
時期		4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3	4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3
主な遊びや単元・予想される活動	環境		
	表現		
		※ 例として、□を遊びや単元、○を予想される活動としてつないでいます。	
大切にしたいこと	子どもの思い	「やってみたい」「どうしてかな」「みんなでやってみよう」	「聞いて聞いて」「もっとやってみよう」「もっとできるよ」
	先生の関わり	遊びに夢中になれる 共感的な関わり 個の思いをつなげる	園での経験がいかせる 協働的に学べる授業づくり 違いを受け入れ自己を表現
		※各小学校区で「大切にしたいこと」を共有しましょう。	
振り返り		※「架け橋期のカリキュラム」は、幼児小の教職員が協働し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を達成させるよう工夫しましょう。 また、大切にしたい共通の視点（指導上の配慮事項等）を協議することで「期待する子ども像」に迫りましょう。 ※共通シートと実践記録を使い、幼児小の教職員が一緒に振り返り、検証・改善を図りましょう。	
		フェーズ4 改善・発展	
		10	



それぞれの実践の振り返りを踏まえて、いっしょにカリキュラムを見直し、次の期間の見通しをもちましょう

- ・園所と小学校が、共通の視点を互いに理解した上で、主な遊びや単元、予想される活動をデザインする

その1 幼児・児童の育ちや学びを理解しましょう

とにかく、**実際の保育・授業を参観**してください。
その際、見取ってほしいのは、「子どもたちの**学びの芽**」です！！

見つけて！子どものねがい・思い

だんごむしは、ここにいる！

育ちを支える共通の視点を見出し、
検討することが大切です！

子どもたちの“**つぶやき**”に耳をすましてください。
活動の“**ねらい**”を意識して観察してみてください。

きもちよすぎる！

おもしろすぎる！

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」
がどのように表れているか等を見取ります。

18～19ページ「幼児期の終わりまでにそだってほしい10の姿」

その2 つぎに、期待する子ども像をいっしょに設定しましょう

保育・授業参観で見た子どもたちの様子を基に、目指す子ども像や課題、校
園で取り組んでいること等、さまざまな視点を取り入れながら話し合います。
子どもに**どのような力を付けたいか**、**どのような課題を解決したいか**を具体的
に描いてみましょう。

考えて！先生のねがい・思い

みんなで、たのしくあそぶには…

子どもたちに**付けたい力**や**課題**について協議する中で、目指す子どもの姿を明
確にしていきましょう。

指示されたことには
一生懸命、真面目に
取り組むよ。

期待に応えようと、
頑張ることができるね。

でも、自分に自信がなくて、
失敗をおそれる姿がみられるね。

自分の思いをうまく伝えられな
くて、けんかになることもあるよ。

「迫りたいのは、**自立心** や **言葉による伝え合い** だね。」

期待する子ども像を、みんなの願いを**具体的な子どもの姿**で描きだすにはどう
したらよいかを協議しましょう。

地域、子どもたちの特性や強みから、期待する子ども像を明らかにしましょう。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を手がかりに、幼小 互いの
教育について理解を深めることが、幼小接続の“**カギ**”です！



その3

5歳児と1年生の
カリキュラムを互いに理解しましょう

実施期間は2年間を想定します。
5歳児から小学校1年生の2年間を見通してみましょう。

育ちを支える共通の視点を見出し、検討することが大切です！



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」と 小学校各教科で目指す
資質・能力のつながり を結びつけながら、**教育課程**や**予想される活動**をデザイン
していきましょう。

園所校でのどのような活動が、どうつながっていく可能性があるか等と一緒に
考え、話し合ってみましょう。



学びの芽を見いだす 幼児教育のカリキュラムと、
その芽を伸ばす 小学校教育のカリキュラム を双方から検討します。

幼児期の「学びの芽」を、小学校でどのように伸ばすか、幼小の双方の教職員で
一緒に考えることが大切です！
どのような活動が、どのように次の学びにつながるかを互いの意見を交流して
みましょう。



その4

期待する子ども像の育成に向けて、
大切にしたいことを共有しましょう

期待する子ども像に迫るために大切にしたいことを語り合ってください。



「大切にしたいこと」？

育ちを支える共通の視点から「指導上の配慮事項」等を協働して考えましょう。

配 慮 事 項	環境単元	自らやってみよう	豊かな体験	関わりが活性化する環境	学びへの期待ができる環境	ペア学習、グルー
	先生の 関わり	遊びに夢中になれる	共感的な関わり	個の思いをつなげる	園での経験がいかせる	協働的に学べる環
	キーワード	やってみよう	できたよ	みんなといっしょに	知ってる、やってみよう	みんなやってみよう
子どもの交流		水遊び	運動会	生活科「もうすぐ2年生」	水遊び	運動会
教職員の交流		授業参観	合同研修	保育参観	連絡会	授業参観 合同研修 保
家庭や地域との連携			地域の夏祭りへの参加	入学に向けて、子どもの成長とともに確認	架け橋の取組について発信	地域の夏祭りへの参加

- ・「複数の幼児と一緒に遊べる広い場所や、複数の教材・教具を用意する」
といった、**具体的な環境構成や単元構成の工夫**
- ・一人一人の幼児・児童に応じた**支援方法**
- ・園と小学校における**具体的な先生の関わり方**

を共有しましょう。

期待する子ども像に迫るために**大切にしたいことは、校区の実態によって異なります。**
「指導上の配慮事項」の項目を充実させたり、精査したりと、内容を検討する中で実
際の校園や地域の実態に即したものにしていきたいと思います。



園所と小学校が、共通の視点を互いに理解した上で、主な遊びや単元、予想される活動をデザインします。

■奈良県版「架け橋期のカリキュラム」実践記録（案）		【 小学校区】	園名（ ）
実践記録例 1		5歳児	就学前側（5歳児）の記録用シート
期待する子ども像	自ら学び（遊び）、互いを尊重しながら地域とともに成長し、心豊かに未来を切り拓く子ども		
幼児期の終わりに育ってほしい姿	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。	
	思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考えなおしたりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしようとする。	
時期	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7		
幼児期の終わりに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿	 写真、コメント等、子どもたちの表情や言葉、姿が印象に残った場面の記録を残していきましょう。		
他園・小学校からのコメント	実践を記録する際は、「何をしていたか」という活動内容だけでなく、子どもたちの“つばやき”や“行動”等「子どもたちがどのようなようだったか」に焦点を当てて記録します。この記録を基に、デザインを見直し、次の期間の見通しを立てます。		

※「架け橋期のカリキュラム」は作成して終わりではありません！

■奈良県版「架け橋期のカリキュラム」共有シート（案）			【 小学校区】校 園 名（ ）		
共有シート（案）記入例		5 歳 児	小 学 校 1 年 生		
期待する子ども像		自ら学び（遊び）、互いを尊重しながら地域とともに成長し、心豊かに未来を切り拓く子ども			
幼児期の終わりにまでに育てほしい姿	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。			
	思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考えなおしたりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしようとする。			
時期		4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3		4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	
主な遊びや単元・予想される活動		環境 表現 数える 調べる 観察する 自然と関わって遊ぶ 色水遊び 水遊び つくる 描く 制作遊び 落ち葉遊び つくる 演じる 劇遊び ごっこ遊び		生活科 あきのおもちゃをつくってあそぼう 楽しい学校（道徳） 生活科 がつこうだいすき たしざんひきざん（算数） 生活科 もうすぐ2年生 大きなかぶを演じる（国語） みんなに話す（国語） みんなで合わせる（音楽）	
		※ 例として、□を遊びや単元、○を予想される活動としてつないでいます。			
大切にしたいこと	子どもの思い	「やってみたい」「どうしてかな」「みんなでやってみたい」		「聞いて聞いて」「もっとやってみたい」「もっとできるよ」	
	先生の関わり	遊びに夢中になれる共感的な関わり個の思いをつなげる		園での経験がいかせる協働的に学べる授業づくり違いを受け入れ自己を表現	
		※各小学校区で「大切にしたいこと」を共有しましょう。			
振り返り		※「架け橋期のカリキュラム」は、幼保小の教職員が協働し、「幼児期の終わりにまでに育てほしい姿(10の姿)」を手掛かりに策定できるよう工夫しましょう。 また、大切にしたい共通の視点（指導上の配慮事項等）を協議することで「期待する子ども像」に迫りましょう。 ※共有シートと実践記録を使い、幼保小の教職員と一緒に振り返り、検証・改善を図りましょう。			

共有シート（案）作成手順

5 歳 児

小学校 1 年 生

期待する子ども像

①期待する子どもの姿を明らかにする

幼児期の終わ
りまでに育っ
てほしい姿

②期待する子ども像に関連がある「幼
児期の終わりまでに育ってほしい姿」
を見出す

時期

4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3

4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3

主
な
遊
び
や
単
元
・
予
想
さ
れ
る
活
動

③期待する子ども像に迫るための主な
遊びや単元、予想される活動をデザイン



⑤実践記録へ P15～16記録用シート

大
切
に
し
た
い
こ
と

④発達の段階を踏まえ、期待する子ども
像に迫るために大切にしたいこと
・指導上の配慮事項
・子ども 教職員の交流
・家庭や地域との連携 等
を共有

振り返り

⑥実践を振り返り、教育課程や活動を見直す（加筆・修正）

■奈良県版「架け橋期のカリキュラム」共有シート（案） 【 小学校区】校 園 名（ ）

		5 歳 児	小 学 校 1 年 生
期待する子ども像			
幼児期の終わ りまでに育っ てほしい姿			
時期		4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3
主な遊 びや単 元・予 想さ れる活 動			
大 切 に し た い こ と			
振り返り			

期待する子ども像		自ら学び（遊び）、互いを尊重しながら地域とともに成長し、心豊かに未来を切り拓く子ども											
幼児期の終わりに育ってほしい姿	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。											
	思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考えなおしたりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしようとする。											
時期	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7												
幼児期の終わりに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿													
	写真、コメント等、子どもたちの表情や言葉、姿が印象に残った場面の記録を残していきましょう。												
他園・小学校からのコメント	研修等の機会に、他園や小学校からもらったコメントを残しましょう。												

期待する子ども像	自ら学び（遊び）、互いを尊重しながら地域とともに成長し、心豊かに未来を切り拓く子ども														
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。													
	思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考えなおしたりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしようとする。													
時期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿															
園所からのコメント	写真、コメント等、子どもたちの表情や言葉、姿が印象に残った場面の記録を残していきましょう。 研修等の機会に、園所からもらったコメントを残しましょう。														

■奈良県版「架け橋期のカリキュラム」実践記録（案）		【 小学校区】	園名（	）																													
	5歳児			小学校1年生																													
期待する 子ども像																																	
幼児期の 終わりまで に育 つてほ しい姿																																	
時期	4	・	5	・	6	・	7	・	8	・	9	・	1	0	・	1	1	・	1	2	・	1	・	2	・	3	4	・	5	・	6	・	7
幼児期の 終わりまで に育つて ほしい姿 が 見られた 子どもの 学びの姿																																	
他園・小 学校から の コメント																																	

■奈良県版「架け橋期のカリキュラム」実践記録（案）		【 小学校区】 校名（ ）	
5歳児		小学校1年生	
期待する 子ども像			
幼児期の 終わりに まで に 育 つ て ほ し い 姿			
時期	1 ・ 2 ・ 3	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 ・ 9 ・ 1 0 ・ 1 1 ・ 1 2 ・ 1 ・ 2 ・ 3	
幼児期の 終わりに まで に 育 つ て ほ し い 姿 が 見 ら れ た 子 ど も の 学 び の 姿			
園所からの コメント			

子どもの遊ぶ姿に見られる

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」



小学校の学習や生活とのつながり

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現



幼稚園・保育所・こども園・小学校で見取ってください！

「幼児期の終わりに育ってほしい姿(10の姿)」

主体的・対話的で深い学びの主語は、“子ども”です

健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

【5歳児】



【小学生】



自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

【5歳児】



【小学生】



協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

【5歳児】



【小学生】



道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

【5歳児】



【小学生】



社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

【5歳児】



【小学生】



思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

【5歳児】



【小学生】



遊びや学びを深めるための“先生の関わり”について話し合しましょう！



幼稚園・保育所・こども園・小学校で見取ってください！

「幼児期の終わりに育ってほしい姿(10の姿)」

自然との関わり 生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしてのいたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

【5歳児】



【小学生】



言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

【5歳児】



【小学生】



数量や図形、標識や文字 などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

【5歳児】



【小学生】



豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

【5歳児】



【小学生】



主体的？

学ぶことに興味や関心をもっている

粘り強く取り組んでいる

見通しをもっている

対話的？

先生や友達との対話を通じて、考えを広げ深めている

子ども同士の協働を通じ、考えを広げ深めている

3つの視点で
子どもたちの姿を見取りましょう

深い学び？

問題を見いだして、解決策を考えている

思いや考えを基に、創造することに向かっている

知識を相互に関連付けてより深く理解している



幼稚園・保育所・こども園・小学校で

「架け橋期のカリキュラム」づくりに期待できることって？

架け橋プログラムの先行実施モデル地域において、このような変化が報告されています！

■ 園における変化

□ 小学校教員との交流や授業参観を通じた意識の変化

- ・小学校の授業や環境を理解し、5歳児の保育に反映
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を強く意識

□ 幼児期の体験・経験を重視した保育の強化

- ・主体的な遊びを促す環境の構成の一層の工夫
- ・5歳児が自分の考えを言語化する機会の増加

□ 小学校を意識した活動

- ・小学校生活への期待を高めるため、1年生との交流活動を増加
- ・小学校の学習環境を参考にした活動を導入

□ 小学校就学への期待を高める取組

- ・5歳児が安心して入学できるよう、小学校の生活習慣や学び方を体験する機会を提供
- ・小学校見学や、1年生との交流活動の増加

□ 小学校教員との交流や授業参観を通じた意識の変化

- ・小学校の授業や環境を理解し、5歳児の保育に反映
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を強く意識

■ 小学校における変化

□ 幼児期の学びを意識した授業の工夫

- ・園での遊びや経験を活かし、導入活動に体験的要素を取り入れる
- ・子どもが「考える」力を伸ばす指導を意識

□ 遊びを取り入れた学習活動の拡充

- ・生活科や国語科の授業で遊びの要素を取り入れ、学習への興味を喚起
- ・各教科等の学習の中でも幼児期の経験を活かす活動の増加

□ スタートカリキュラム導入で柔軟な時間設定

- ・小学校生活へ円滑な接続を図るため、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の充実
- ・1学期の前半は体験的な活動の時間を多く確保し、子どもの学びのスタートをサポート

□ 子どもの主体性・協働性を重視した学習環境の整備

- ・授業の中で子どもが自分の意見を言える場面を増加
- ・話し合い活動等の協働的に学ぶ機会を重視

□ 幼児期の学びを意識した授業の工夫

- ・授業の中で子どもが自分の意見を言える場面を増加
- ・話し合い活動等の協働的に学ぶ機会を重視

幼保小の架け橋プログラムのモデル地域における成果に係る調査研究事業(成果検証)の報告

文部科学省 国立教育政策研究所「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」



